

清水 善朗〔弁護士〕

楽しく米作り



3年ほど前から倉敷市西坂にある田圃を借りて、米作りをしている。メンバーはパン屋さん、大学教授、レントゲン技師や主婦等々、農家のSさんが指導者で、パン屋さんとはSさんの田圃を借りている。

農薬を使わず、やっぱり草取りに関しては、アイガモ区画、人力草取り区画があり、バクテリアと収量や食味の関係を比較するための区画割もしている。部分的に数種類の古代米も作付けしている。

米作りのメインイベントといえば田植えと稲刈り。手植えと人力での稲刈りは、田圃1枚分だけ人力でおこない、大部分はSさんの田植機とコンバインに活躍していただく。

清水 善朗氏

1955年鴨方町生まれ。1987年から倉敷市で弁護士開業。趣味は山登り、稲作、間伐などアウトドア。(財)おかやま環境ネットワーク理事。

人力での田植え、稲刈りは腰に応える。大学生にも手伝ってもらって一列に並んでの共同作業だから、カラ元気も手伝って何とかやっけてはいるものの、田植機やコンバインの有り難さがよくわかる。

去年は、回転式の脱穀機が登場した。小学生の頃だったか、この脱穀機が画期的な省力化をもたらしたと教わったような記憶があるが、しかし、稲刈りと同時に脱穀までやってしまうコンバインの活躍と比べるととてつもなく影は薄い。

しかし、手植え、手刈りした稲は、丸棒と竹竿で組んだ稲架(ハサ)に掛けて干し、回転式の脱穀機で脱穀した。中年を過ぎたメンバーは遠い昔に体験した作業や、光景へのこだわりがある。これらの作業によって米が美味しくなるのかどうか分らないけれども、やらずに済ますことはできない。

メインイベントと比べて光の当たらない地道な作業が、手植え、手刈り区画の除草作業。メンバーが都合のつく時にそれぞれやりましようということなのだが、雑草が勢いづく時期といえは暑い時期。寝坊のメンバーは、日が昇った頃になってから雑草と格闘を始める。汗だくになりながら。

となりのアイガモ区画はといえは雑草なし。脱走防止のためのネット張りや小屋づくりという作業を伴うものの、確かに役立っている。今年も、鴨鍋というさらなる楽しみを狙っている。この狙いに立ち届かぬのが、毎日屑パンを与えアイガモに愛情を抱くパン屋のTさんである。Tさんの目を盗んで鴨鍋にたどり着くことが今年の課題である。

